クラス番号	241	ゼミタイプ	エクスカーション　型
		担当教員名	伊藤　文人
テーマ	戦時下の生活・子ども・若者――戦争と社会福祉について当事者から学ぶ		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

【概要】

「戦争と社会福祉」とは突飛なテーマのように思われるでしょう。しかし現代の日本社会は、戦時下の社会状況にかなり相似的になってきている、という指摘もあります。戦前の復古主義の回復を唱える人々の声が社会で影響力を増しているのです。この動向を等閑視すると、「朝起きたら戦争が始まっていました」ということも起きかねません。事実、教育基本法も改正されたし、集団的自衛権への解釈変更がなされ自衛隊は事実上海外に派兵が可能になっています。

このゼミでは、戦前の日本社会の政治経済的体制のなかで福祉がどのように位置づけられたか、特に当時の「子どもと若者」に焦点を当てながら、日本社会の歴史を多面的に検討していきたいと考えています。社会福祉の専門職になるか、ならないかに関係なく、受講生の皆さんは、今後の日本社会の担い手になります。専門職なるにせよ、ならないにせよ、共通して求められているのは、自分や周りの「人々の生活をどのように理解するのか」ということになるかもしれません。「生活」と一口に言ってもその内実は「歴史的な時間軸の中で変化」しますから、私たちが想像している生活の内実と、戦争を体験してきた高齢者たちが経験してきたそれは異なります。当時の「子どもや若者たち」がとりわけ大きな影響を受けたのは、教育と福祉分野でした。

本ゼミでは、①戦前の政治経済体制の特徴、対外関係だけでなく、国民の「**生活様式**（職業、住宅、結婚、遊び、教育、徴兵制など）を文献、写真、映像から学びます。②実際にこの時代を生きてこられてご健在の地域の高齢者（かつての子どもと若者）に、当時の日本社会と戦争政策の影響について**「生活史」（ライフ・ヒストリー）という方法**を用いて、聞き取りをできればと考えています。③インタビューをするにあたっては、「半田空襲と戦争を記録する会」という市民団体に協力を仰ぐ形で実施したいと思います。「記録する会」の方を大学にご招待し、過去の国民生活の話を聞いたり、それがわかる遺跡見学も（環境が許せば）行います。④12 月にはこれらを全てのゼミ員が協力する形で報告集にまとめていくことが理想です。

【受講生の声】＜伊藤ゼミでの学習の魅力（M.T さん）＞

私はゼミに入るまで伊藤先生の存在を知りませんでした。また伊藤ゼミに所属したことを先輩に報告したら「厳しいぞ！」と言われてびびっていました。しかし先生の学習に関する話をじっくり聞くと、ものすごく面白いことを自分が取り組んでいることが分かってきました。だから、今は伊藤ゼミを選んで良かったと心底思っています。ゼミでは、過去の戦争と福祉の関係を学習するものですが、おおまかな学習の指針や文献・資料を先生が示してくれた上でグループ学習を進めます。先生のゼミには「メンターさん（ゼミ学習を補佐してくれる先輩たち）」がいて、議論の方法やレポートの書き方などを教えてくれます。しかし、なんといっても学生たち自身で学習テーマを考え、それを実行に移していく、そんな自分たちが主体となる雰囲気や環境をお互いが大事にしているところが面白いです。先生が学生たちの提案を最大限尊重し、より良いものを創ろうとしてくださるので、形に縛られたくないひとや、自分の企画や意見を持ち、積極的に周りの人とそれを交換していきたい人、とにかく何かやってみたい人には、お勧めです！！

担当教員からのメッセージ

歴史から見えてくることは、たくさんあります。「社会福祉」の内実も歴史を踏まえて多角的に理解していくとこれまでにない発見があるのではないでしょうか。

他者のニーズに応答するのが社会福祉専門職であると言われていますが、ニーズに応える前提は、他者を歴史的存在として認識していく姿勢だと思います。

お互いの考えを尊重しながら知恵を集めて学習対象の理解に取り組んでいきたいものですね。ゼミでの出会い（一期一会）を大切にしたいものです。